

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点	
問一	①	魚		各2×5	
	②	志			
	③	参			
	④	説			
	⑤	民			
問二	ア	ほうぼう		各2×5	
	イ	せんぶん			
	ウ	れんおち			
	エ	ふぎょうほう			
	オ	かんすぼん			
問三	ア	硬い毛で作った筆。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各2×6	
	イ	紙などに押印したもの、またはその印の跡。			
	ウ	磨った後、長時間または一夜を経た墨汁。			
	エ	観賞用として古筆切を折帖に貼り付け仕立てたもの。			
	オ	紙の折れ目に当たってできた節。			
	カ	角張った点画の書き方。			
問四	乾拓法	紙を当て、そのままこすり採る方法。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各2×2	
	湿拓法	貼り付けた紙を水でぬらし、表面が半乾きの状態になった ら拓本墨を付けて採る方法。			
問五	特徴	点画や字形が曲線的になる。	字例	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各2×3
	特徴	点画が次の画に続く。	字例		
	特徴	点画を省略する。	字例		
	特徴	筆順が変わる。	字例		
	特徴	点画の方向が変化する。	字例		
	特徴	点画の収筆が変化する。	字例		

日

42

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一	起筆は筆先を少しからめて蔵鋒にし、蚕の頭のように丸くする。収筆は燕の尾のように二つに分かれる右払いの書き方で払う直前に筆を止め、少し持ち上げてから、すっと払う。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
	問二	ア	食物を煮炊きするための器。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3
		イ	書風の特徴	均整の取れた字形。太くたくましい線質には堂々とした造形美が宿る。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。
	内容		康王が臣下である孟に下した策命及び、孟が策命を受けた記念として、鼎を作ったこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
	問三	横画	右の方から左へ筆を入れ、穂先を包み込んで折り返し、穂先が線の中心を通るように筆を運び、収筆は押さえつけない。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各3×4
		縦画	下から上に突き上げ、穂先を包み込んで折り返し、穂先が線の中心を通るように筆を運ぶ。		
		波磔・払い	波磔は、直前で一度右下に力を加え、弧を描くようにゆっくり右斜め上に払い出し、左払いは、止めたら力を抜かず左斜め上に押し出す。		
		転折	横画の終わりでいったん筆を離し、改めて縦面を書いて二画を合わせる。		
	問四	字形は扁平で、温かみを感じられる古意豊かな線質に特色がある。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
	問五	骨格がしっかりとしており、線の太さの変化がアクセントになっている。筆の運びが分かりやすい、穏やかで格調高い書風。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
三	問一	ア	寸松庵色紙		3
		イ	夕暮れになって薄暗い小倉山で鳴いている鹿の声のうちに、秋は暮れていくのだろうか。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
		ウ	那久之可乃		5
		エ	直筆で書かれた、粘りと張りのある強い線が特徴である。特に右下に回転していく線が多い。運筆は大きく、ゆったりとおおらかである。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
	問二	ア	② 関戸本古今和歌集	関戸本古今集 もよい。	各3×2
			③ 元永本古今和歌集	元永本古今集 もよい。	
イ	②、③は同じ歌を書写したものであるが、平仮名、変体仮名の使い方が異なっている点。		問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	各6×3	
	②は筆の弾力を利かせ連続にリズムをつけており、③は筆を突き返しながら直線を生かし、先へ先へと筆を進めている点。				
	②はゆったりと大回りに運筆しており、③は大回りの曲線を控え、字間を詰めて行を絞るように運筆している点。				

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点																		
四	<p>永和九年、癸丑に当たる歳、三月の初め、会稽山陰の蘭亭に会合した。禊を行うためである。賢人は全て至り、老いも若きもみな集まった。この地には高い山険しい嶺、よく茂った林と高く伸びた竹とがあり、また清らかな流れと早瀬があり、辺りに照り映えている。それを引き込んで流觴の曲水を作り、人々が順次並んで座った。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	18																		
五	<p>問一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊</li> <li>・懐紙</li> <li>・巻物</li> <li>・冊子</li> <li>・折帖</li> <li>・屏風</li> <li>・軸装</li> </ul>	<p>3つ書かれていればよい。 順序は問わない。</p>	<p>各3 × 3</p> <p>20</p>																		
	<p>問二</p> <p>連綿による流動美と、仮名の書独自の散らし書きによる余白美が、わが国特有の美であることを理解し、行の長短や高低、行間の広狭や墨継ぎなどを工夫すること。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>		11																	
六	<table border="1"> <thead> <tr> <th>次</th> <th>学習活動</th> <th>指導上の留意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一</td> <td>既習事項を再確認し、表現意図を構想する。</td> <td>これまでに臨書した古典作品の書体・書風について再確認させ、どのように表現するか構想させる。</td> </tr> <tr> <td>二</td> <td>字の大きさ、配置等の全体構成について表現効果を理解する。</td> <td>同じ語句を用い、文字の大きさや、配置を変えて表現させ、表現効果の違いを確認させる。</td> </tr> <tr> <td>三</td> <td>用具・用材による表現効果について理解する。</td> <td>墨の濃淡、筆の種類を変えながら、同じ文字を表現させ、表現効果の違いを確認させる。</td> </tr> <tr> <td>四</td> <td>構想した表現意図に基づく表現になるよう作品を作成する。</td> <td>全体構成、用具・用材による表現効果を踏まえ、表現意図に基づく作品を作成させる。</td> </tr> <tr> <td>五</td> <td>完成前の作品を互いに鑑賞し、自分の作品を再検討する。振り返りを生かして、作品を完成する。</td> <td>表現意図に基づく作品とするために工夫した点を口頭発表あるいは創作カードに記述して、互いの作品を鑑賞することを通して、他者の工夫を知り、自分の作品をより高めるための工夫を考えさせる。振り返りを生かして作品を完成させる。</td> </tr> </tbody> </table>	次	学習活動	指導上の留意事項	一	既習事項を再確認し、表現意図を構想する。	これまでに臨書した古典作品の書体・書風について再確認させ、どのように表現するか構想させる。	二	字の大きさ、配置等の全体構成について表現効果を理解する。	同じ語句を用い、文字の大きさや、配置を変えて表現させ、表現効果の違いを確認させる。	三	用具・用材による表現効果について理解する。	墨の濃淡、筆の種類を変えながら、同じ文字を表現させ、表現効果の違いを確認させる。	四	構想した表現意図に基づく表現になるよう作品を作成する。	全体構成、用具・用材による表現効果を踏まえ、表現意図に基づく作品を作成させる。	五	完成前の作品を互いに鑑賞し、自分の作品を再検討する。振り返りを生かして、作品を完成する。	表現意図に基づく作品とするために工夫した点を口頭発表あるいは創作カードに記述して、互いの作品を鑑賞することを通して、他者の工夫を知り、自分の作品をより高めるための工夫を考えさせる。振り返りを生かして作品を完成させる。	<p>問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 学習活動と指導上の留意点が対応しているものだけを正答とする。</p>	30
次	学習活動	指導上の留意事項																			
一	既習事項を再確認し、表現意図を構想する。	これまでに臨書した古典作品の書体・書風について再確認させ、どのように表現するか構想させる。																			
二	字の大きさ、配置等の全体構成について表現効果を理解する。	同じ語句を用い、文字の大きさや、配置を変えて表現させ、表現効果の違いを確認させる。																			
三	用具・用材による表現効果について理解する。	墨の濃淡、筆の種類を変えながら、同じ文字を表現させ、表現効果の違いを確認させる。																			
四	構想した表現意図に基づく表現になるよう作品を作成する。	全体構成、用具・用材による表現効果を踏まえ、表現意図に基づく作品を作成させる。																			
五	完成前の作品を互いに鑑賞し、自分の作品を再検討する。振り返りを生かして、作品を完成する。	表現意図に基づく作品とするために工夫した点を口頭発表あるいは創作カードに記述して、互いの作品を鑑賞することを通して、他者の工夫を知り、自分の作品をより高めるための工夫を考えさせる。振り返りを生かして作品を完成させる。																			